

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11488

研究課題名（和文）バスケットボールにおけるディフェンス・システムの系統に関する歴史的研究

研究課題名（英文）A Historical Study on the Lineage of Defensive Systems in Basketball

研究代表者

大川 信行（Okawa, Nobuyuki）

富山大学・学術研究部教育学系・教授

研究者番号：10185209

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000 円

研究成果の概要（和文）：バスケットボールにおけるディフェンスシステムの系統は3つに大別することができる。初期のディフェンスは「マンツーマンディフェンス」であり、1920年までに「ゾーンディフェンス」が誕生していた。その後、60年代までにゾーンはいろいろな陣形を派生させていた。1960年代から70年代にかけては、積極的にミス誘発させる「プレッシャーディフェンス」が普及すると共に、マンツーマンとゾーンを組み合わせたコンビネーションディフェンスも登場していた。1980年代から90年代にかけては、ビッグアンドロールに対するドロップ、ショウ＆リカバリー、ブリッジといった戦術も派生させていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

バスケットボールにおけるディフェンスの発展はそれと相反するオフェンスとの関連性が深く、お互いが表裏の関係をを保ちながら発展してきている。特に、現在使われているディフェンスシステムの大半は、1970年代までにその基本形が出来上がっており、これらのシステムを中心的に解明することで、現在使用されている主なディフェンスの分析並びに新たな戦術の開発が可能となってくる。この点に本研究の学術的意義が見いだされる。また、本研究の成果は中学校からプロに至るディフェンス分析や新たな戦術開発の一助になるだけでなく、スポーツ戦術論の一領域として、ほかの球技種目にも応用可能な波及効果が得られる。

研究成果の概要（英文）：The lineage of defensive systems in basketball can be divided into three broad categories. The early defense was the “man-to-man defense”. By 1920, the “zone defense” was born. By the 1960s, the zone was derived from various formations. From the 1960s to 1970s, the “pressure defense,” which aggressively induces mistakes, became popular, as well as the combination defense, which combined man-to-man and zone. From the 1980s to the 1990s, tactics such as the drop against the pig-and-roll, show-and-recover, and bridge were also derived.

研究分野：総合領域

キーワード：バスケットボール ディフェンス・システム 系統 歴史的研究

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

我が国におけるバスケットボールのディフェンスに関する戦術的な研究をみると、非常に立ち遅れている現状であると言わざるを得ない。特に歴史的に扱った研究となると、その数は非常に少なく、そのために1つの戦術をとっても、それがどの系統から派生していて、類似する戦術が何かなのかさえ、わかっていない。このような現状であるため、そこから新しく独創的で効果的な戦術を誕生させることは、ほとんど不可能な状態であり、大半がアメリカの模倣で終わっている。

2. 研究の目的

本研究は、上述したような手詰まりの状況を打開するために、これまでほとんど取り上げてこられなかったバスケットボールの戦術史に焦点を当て、今日までに使われてきた多種多様なディフェンスシステムの系統を年代別に分類することで、現在使われている戦術並びに新たな戦術開発のためのデータベースを作成することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は単独による文献研究あり、期間は4年間であったが、新型コロナの影響により1年間の延長をおこなった。

(令和元年度)1891年から1920年代までのバスケットボールに関する「指導書」及び「雑誌類」の多くは、アメリカ合衆国スプリングフィールド市にあるスプリングフィールド大学附属図書館やバスケットボール殿堂の図書館及びニューヨーク公立図書館等に保管されていることがわかっていて、そこで、これらの図書館に出向き、関連する史料の発掘及び複写をおこなう。集めた史料を翻訳し、黎明期におけるディフェンスシステムの分類をおこない基礎データとする。なお、史料の大半は今から100年以上も前のレアコレクションであるため、コピー機による複写はできない場合が多いことから、接写機能付きのデジタルカメラとデータ処理と保存にモバイルコンピューターを使うことにした。

(令和2年度)渡米し、史料収集をおこない、同じ要領で1930年代から50年代の考察をおこなう。ここではこの時期に出現してきたディフェンスシステムが、その前の時期の原型、すなわち基礎データの中に分類できるのかどうかを見分ける作業を中心に進める。もし、分類できないディフェンスシステムがあれば、それは新たに出現したデータとする。

(令和3年度)渡米し、史料収集と翻訳をおこない、1960年代から80年代までの考察をおこなう。ディフェンスシステムの原型は、大体70年代までには出来上がっていたと想定されるため、それ以降のものは、各原型から派生したものと考えられる。したがって、ここではこの時期を代表するディフェンスシステムとして、大学の各カンファレンスで優勝したチームが主に使用したもの、並びに当時の著名なコーチが使用していたディフェンスシステムを取り上げて考察をする。

(令和4年度)ここでも渡米し、史料の発掘と複写をおこなう。考察期間は1990年代から現在までの30年間であるが、その量は膨大であるため、ここでも各カンファレンスで優勝したチームのディフェンスシステムや著名コーチが使用していたものを中心に取り上げることにする。集めた史料を翻訳し、系統ごとに分類してデータベース化し、これまで分析してきた事柄と併せてまとめもおこなう。

4. 研究成果

周知のように、令和2年度から令和4年度まで、新型コロナの影響で史料収集のための渡米ができなかった。そのため、この期間は国内の図書館等で可能な限り史料収集をおこなったが、十分な収集ができなかったことから、1年間延期の措置をとった。

(令和元年度)史料の調査・収集を2019年9月24日から10月1日までの期間で、バスケットボールが誕生したマサチューセッツ州スプリングフィールド市にあるスプリングフィールド大学とニューヨーク市のニューヨーク公立図書館でおこなった。また、収集対象として1920年位までは主に、YMCAの機関誌であったThe triangle、公式ルールやゲームの実施方法、戦術などが掲載されていたSpalding's Official Basket Ball Guide 及び Spalding's Athletic Libraryなどの雑誌類とInternational YMCA training schoolのThesis(卒業論文)に加え、1910年代から出版され始めたコーチによる指導書であった。1920年代は、Spalding's Official Basket Ball Guide 及び Spalding's Athletic Libraryの他に、Athletic Journalを調査し、指導書も渉猟した。バスケットボールにおける最初のディフェンスシステムはマンツーマンディフェンスであった。その後、1920年代までにゾーンディフェンスが誕生していた。収集された史料のなかで、特に成果としてあげられるのは、後のゾーンディフェンスに多大な影響を及ぼしたとされているPosition Styleに関する詳細な史料を収集できたことである。これにより、1900年代後半から1910年代位までの主要な戦術の一部とゲームの詳細を明らかにすることができた。

(令和2年度)令和2年度は国内の大学図書館が所蔵している文献等を調査し、1930年代から50年代までの「指導書」と「雑誌」の収集・翻訳をおこなった。1930年代の指導書は1冊、40年代が5冊、50年代が2冊、そして雑誌としては、バスケットボールの記事が多く掲載されている“ATHLETIC JOURNAL”のディフェンスシステムに関する論文を収集した。基礎データとして、創案から1920年代までの主なディフェンスシステムは7つに分類することができた。旧式のシフティング・マンツーマン・ディフェンス、ファイブマン・ワンライン・ディフェンス、ツーマンセット・スリーマンシフティング・ディフェンス、スリーマンセット・ツーマンシフティング・ディフェンス(ポジションスタイルを含む)、フォーマンボックス・ウィズワンマンシフティング・ディフェンス、ファイブマン・ツーライン・ディフェンスである。なかでも、

のファイブマン・ツーライン・ディフェンスは1920年代になると、指定制のマンツーマンディフェンスと地域を守るゾーンディフェンスの2つの方法が用いられるようになり、後者はその後、3-2ゾーンディフェンスとなっていた。1930年代の後半から50年代にかけてはの発展形として、2-3ゾーンディフェンスと2-1-2ゾーンディフェンスが改良されていた。また、マンツーマンディフェンスにおいても1932-33年度のルールからスクリーンプレイが合法となったことから、その対策として、「スイッチディフェンス」が多用されていた。

(令和3年度)1960年代の「マンツーマンディフェンス」に関しては、少し相手との距離を離して守るレギュラー・マンツーマンと密着して守るタイト・マンツーマン、それにスウィッチング・マンツーマンが継承されていた。「ゾーンディフェンス」では、2-1-2の陣形が60年代初めに最も広く使用されており、1-2-2や1-3-1も使われていた。また、攻撃の陣形に合わせて防御の陣形を変えるマッチング・ゾーンが新たに登場している。60年代で特筆すべきは「プレスディフェンス」の普及である。これはマンツーマンでもゾーンおこなわれており、フルコート、ハーフコート、さらには新規でスリークォーターでも実施されていた。ゾーンの場合は2-1-2や2-2-1の陣形が多用されていた。また、1966年にはプレスディフェンスに対する攻撃法のみを扱った指導書さえ出版されていた。加えて、マンツーマンとゾーンを合わせた「コンビネーションディフェンス」も出現しており、2人がマンツーマンで3人がゾーンをひくトラアングルアンドツー、1人がマンツーマンで、4人がゾーンのボックスアンドワン、などが登場していた。1970年代の「マンツーマンディフェンス」では、ドリブラーに対して防御者が2人つくトラップ(ダブルチーム)を伴うディフェンスが新たに出現していた。同様に「ゾーンディフェンス」でも、3-2や2-3も陣形ではトラップ(ダブルチーム)を伴うディフェンがおこなわれていた。「プレスディフェンス」に関しては、1-2-2や1-2-1-1の陣形が登場していた。1980年代の「ゾーンディフェンス」で、Tゾーンと呼ばれる1-1-3やリバースTゾーンの3-1-1の陣形が新規に登場していた。この年代は60年代と70年代に登場してきたディフェンスシステムが継承されていた、と判断された。

(令和4年度)1990年代のディフェンスは「マンツーマンディフェンス」が主流で、そのため、「スイッチディフェンス」が増加し、さらに、通常より1歩引いた「バックラインディフェンス」が登場していた。また、1990年代後半には「フルコートプレスディフェンス」も増加し、さらには相手の中心選手にボールを持たせない「ハードヘッドディフェンス」が誕生している。2000年以降はNBAの「ゾーンディフェンス」が2001年から解禁となったことから、ゾーンディフェンスが増加するが、それに伴い、試合中にマンツーマンとゾーンを入れ替える「ディフェンススキーム」の多様化がみられた。また、スクリーンプレイの一種であるピックアンドロールに対するディフェンスが発展し、単なる守る相手を交換する「スイッチディフェンス」だけではなく、「ドロップ」や「ショウ&リカバリー」、さらには「ブリッジ」といった戦術が開発されていた。2010年代から現在までは、3ポイントシュートの成功率が増加し、それに伴い、ディフェンダーはより外側にポジションニングするようになっている。また、テクノロジーの進歩によって、ビデオ分析やデータ解析が容易になり、それらにもとづいて、相手の次の行動を予測し、最適な位置取りをしてカバーする「アニメーションディフェンス」が開発されている。さらに、「トラップディフェンス」や「ゾーンプレスディフェンス」など相手(特にボールハンドラー)にプレッシャーをかけるディフェンスのバリエーションが多彩となっていた。

(令和5年度)期間延長による最終年度は、新型コロナウイルスの影響がなかったため、1930年代から50年代と1990年以降のディフェンスシステムの調査・収集・分析を行った。1930年代はゾーンディフェンスの系統として「2-3ゾーン」と「2-1-2ゾーン」がよく使われ、40年代初頭にかけては「1-2-2ゾーン」(3-2の変形)や「1-3-1ゾーン」(2-1-2の変形)、さらには「3-1-1ゾーン」(3-2の変形)が誕生していた。これらは1932年の「10秒ルール」と1936年の「3秒ルール」制定が起因していた。一方、マンツーマンディフェンスは1932年のから「スクリーンプレイ」が合法となったことから、その対策として「スイッチディフェンス」が多用されていた。1990年代以降に関しては、令和4年度の成果の確認が取れた。

以上の事柄をまとめると、バスケットボールにおけるディフェンスシステムの系統は、「マンツーマンディフェンス」と「ゾーンディフェンス」、それに「プレスディフェンス」の3系統に大別され、各系統はさらに多くのバリエーションを派生させていたことが判明した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大川信行	4. 巻 6号
2. 論文標題 1900年代末にアメリカ東部で普及したポジション・スタイルの内容について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 バスケットボール研究	6. 最初と最後の頁 67 - 78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------